



赤城南麓の山あいには落ちる数々の表情豊かな滝。粕川地区は自然が織りなす美しい風景の宝庫です。今回は、その中でハイキング初心者でも訪れやすい旭の滝を目指す片道約3・5キロのコースを歩きます。

国道353号線から北へ。雄大な松並木が迎えてくれます。豊かな森の中を道なりに、穏やかな山道を進みます。

しばらく歩くと、道路脇に「旭の滝入り口」の看板があります。ここから木製の階段を下ると、5分ほどで旭の滝が見えてきます。大猿川の中流にあるこの滝は、高さ約8メートル。岩盤から滝つぼへ白い流れが注ぎ込み、周囲はとても神秘的な雰囲気になっています。

また、西側にある宇通遺跡は、市指定史跡。かつては赤城神社の旧社地とする説がありましたが、出土品や遺構などの調査が進み、現在では平安時代後期の寺院跡と考えられています。

清らかな水の流れと心豊かな日本の原風景が残る粕川地区。市内を一望できる眺めもこのコースの魅力です。森林や川のせせらぎは心を癒してくれます。コースは整備されていますが、川沿いは凍結していると大変滑りやすくなっています。滑りにくい靴を選ぶなど、しっかりと準備をして出掛けましょう。

前橋 ウォーカー 粕川地区 神秘的な滝と静寂な森を歩く



スタートは松並木

昨年大みそかの「第62回NHK紅白歌合戦」のステージで紅組司会の井上真央さんが着た衣装をデザインした。プロ、アマ問わず全国から応募があった1、341通の中から選ばれたものだが、実は募集していることを知ったのは、締め切りの2日前だった。

「紅白の出場歌手を調べようとNHKのホームページを見ていて、たまたま募集していることを知りました。急いで描き始めたのですが、不思議なくらい次々とアイデアが浮かんできました」

園田さんがデザインしたのは、桜の花びらやライオンストーンがふんだんに散りばめられた淡いピンクのドレス。「世界中の人々との心のつながりを表現した」という背中の大きなリボンがポイントだ。

「東日本大震災で津波の被害を受けながらも美しく花を咲かせている桜の映像が目に残っています。多くの日本人に親しまれる桜を題材に、本物の桜を目にしたときのように、穏やかな気持ちになるようなドレスにしたいと思いました」

現在小学4年生と5年生の2児の母。小さいころから絵を描くのが好きだったが、衣装のデザインの勉強をした経験はないという。被災地の復興を祈りながら鉛筆を走らせた。

「悲しみの春から立ち上がり、美しい桜を見た人すべてにほほ笑みが浮かぶ。そんな日が来ることを願っています」

もうすぐ桜の便りが聞こえてくる時季。園田さんの祈りが被災地に届き、一日も早い復興を願う。



井上真央さんのステージ衣装をデザイン

園田 麻衣さん 40歳
住吉町二丁目



クローズアップ



妙技が光る消防隊出初め式

1月8日、前橋公園で新年恒例の消防隊出初め式を開催。姿勢服装点検や分列行進などを行い、消防隊員の団結と士気の向上を図りました。伝統のはしごのりでは、次々と披露される多彩な技に、集まった大勢の観客から大きな拍手が送られました。



学びと遊びの施設が開館

1月21日、新しい児童文化センターが開館。児童文化センター合唱団とジュニアオーケストラが歌声と演奏を披露し、開館に花を添えました。また、プラネタリウムの無料開放やマジックショーなど、さまざまなイベントが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。



美術館の可能性を探る

1月14日、市民文化会館でシンポジウム「美術館をかたる。」を開催。ロンドンの美術館テートモダン元館長・ラース ニッティヴさんや美術評論家・岡部あおみさんなどが講演。世界の先進的事例などを紹介しながら、美術館の役割などについて議論しました。



1年の福を求めてにぎわう

恒例の初市まつりを1月9日、中心市街地で開催しました。国道50号の本町通りを中心に、だるまや縁起物などを買い求める大勢の人でにぎわいました。ことしは福島県の特産品を販売する「ふくしまや」も出店。多くの人たちが購入を通じて支援していました。